ネットワーク

Vol.174
2018
5
MAY

発行・編集
マッセOSAKA
公益財団法人大阪府市町村振興協会
おおさか市町村職員研修研究センター
大阪市中央区大手前３丁目１番43号
大阪府新別館南館６階
TEL 06-6920-4565　FAX 06-6920-4561
HP：http://www.masse.or.jp/
E-mail：center-tr@masse.or.jp

本号では、平成30年度のマッセOSAKA研修研究事業についてご紹介いたします。
また、マッセOSAKAホームページに最新情報を掲載しておりますので、併せてご覧ください。

◆ 研究事業の紹介 ◆

研究事業では、市町村独自の政策形成の推進を目指し、広域的あるいは将来的な課題についての調査・研究を進め、新たな行政課題や政策についての提言、情報の蓄積や受発信を行います。

○研究会

平成30年度は、次の２つの研究会を実施します。詳細については、次号でご紹介いたします。
◇“自治体トークン”（地域コイン）で地域経済活性化～地域通貨を導入した地方創生研究会～（新規）
◇働き方改革を踏まえた組織マネジメント研究会（新規）

○地方分権ゼミナール

平成30年度も引き続き、４つの大学と連携して、地方自治、地方財政などをテーマにした、より専門性の高い調査・研究を行います。

【大阪大学大学院法学研究科との連携】
受講生の希望により研究テーマを設定し、担当講師と10月から４か月間にわたる研究活動を行います。研究成果のプレゼンテーション発表と論文作成を通して発信力の向上を図ります。

【大阪学院大学大学院経済学研究科との連携】
公共政策に関する特定テーマを設定し、当センター所長の齊藤愼教授をはじめ、各種分野の専門家による連続講座を通じて現実問題を考察することにより実践的能力の充実を目指します。

【大阪市立大学大学院創造都市研究科との連携】
希望する大テーマを１つ選択し、都市公共政策分野の第一人者をゲストスピーカーとしてお招きするワークショップ（３回程度）への参加を通して、公共政策が直面する課題解決のための研究を行います。

【和歌山大学大学院経済学研究科との連携】
公共政策に関する特定テーマについて研究・検討を行うことにより、実践的能力の向上を図ります。今年度は栄谷キャンパスにおいて「交通政策論特殊問題」、岸和田サテライトにおいて「産業経済地理学特殊問題」を実施する予定です。

○研究紀要

市町村行政における喫緊課題を取り上げ、研究者による「政策提言論文集」として発行します。また、府内市町村職員から公募した論文の中から最優秀論文を掲載します。

マッセOSAKA公募論文・エッセイ募集！
自治体や行政に関する内容であれば、福祉、教育、環境、行財政などテーマは自由です。ふるってご応募ください。
応募締切：平成30年９月28日（金）必着

特　別　研　修　の　紹　介

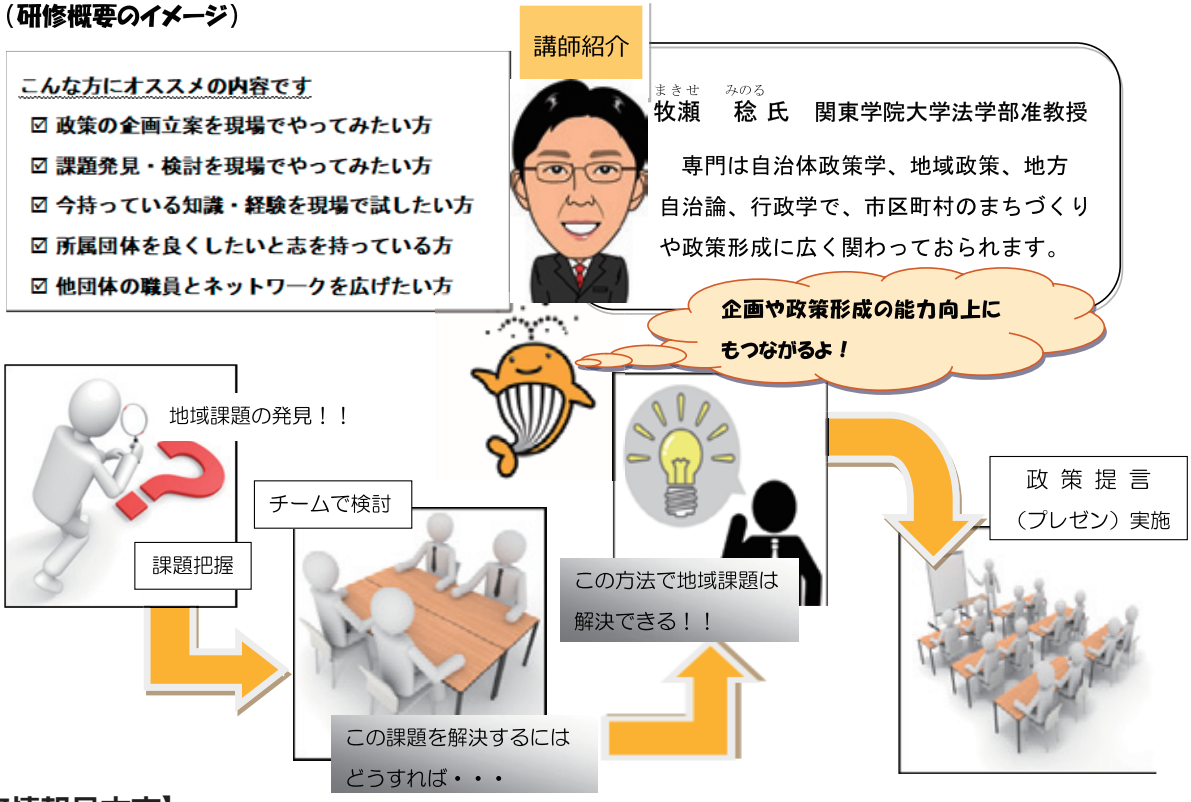
【政策形成実践研修】

今年度で３年目となる「政策形成実践研修」は、大阪府内の自治体を調査・検討し、フィールドワークなどを通じ、モデル団体の地域課題の解決に向けて、より実践的な政策立案について学ぶ目的で実施しています。

平成29年度のモデル団体は「藤井寺市」で、13名の大阪府内の自治体職員が政策提言まで５カ月の研修に挑戦しました。講師は、関東学院大学法学部地域創生学科准教授の牧瀬稔先生をお招きし、受講生に対し指導･助言していただきながら､最終的には平成29年10月30日「政策提言プレゼンテーション」を開催し、國下市長をはじめ幹部等職員の前で政策提言を行いました。

國下市長への政策提言書の提出

（研修概要のイメージ）



【研修情報見本市】

平成30年度研修情報見本市を８月31日（金）に開催することが決定しました。

本事業は、各団体の研修担当課の方を対象に、研修業者がオススメするテーマのプレゼンテーションを聞くことで、今後の研修企画の参考としていただくものです。毎年、府内外の自治体やシンクタンクから多くの方々にご参加いただいており、研修業者のプレゼンを聞いていただくほか、人事研修担当者同士の意見交換や、ネットワークの構築にもご活用いただければと思います。前回の参加者からいただきましたアンケート結果を参考にしながら、市町村がより興味を持っていただける講師・テーマなどを精査し、さらにより良い事業にしていきたいと考えています。

詳細は、７月上旬頃に各市町村、各団体へ開催通知と参加申込書をお送りさせていただきます。是非多くの方々にお申込みをいただき、ご参加のほどよろしくお願いいたします。

昨年の様子

◆ 研修事業の紹介 ◆

「平成30年度研修計画」に基づき、全95コースの研修を実施します。
皆さまのご参加をお待ちしております。お申込みは、各市町村職員研修担当課までお願いします。それでは、全95コースの中からマッセOSAKAお勧めの研修を3つご紹介します。

＊＊

■RESASを使った地域情報分析研修

【実施日：平成30年7月31日（火）・8月1日（水）　締切日：平成30年6月21日（木）】

RESASを活用するためのデータ分析・統計学の基礎知識を身につけるとともに、パソコンを用いて、RESASの基本操作を学び、データに基づいて未来を考えるプロセスを習得します。

> 地域経済分析システム（RESAS：リーサス）は、地方創生の様々な取り組みを情報面から支援するために、経済産業省と内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）が提供しています。
> 自治体職員の方や、地域の活性化に関心を持つ様々な分野の方によって、効果的な施策の立案･実行･検証のためなどに広く利用されています。

＊＊

■ミス防止研修①・②

【実施日：平成30年8月9日（木）①（9:20～12:35）・②（13:50～17:05）
締切日：平成30年7月2日（月）】

ミスがミスを呼ぶ悪循環を断ち切るために、ミスの原因を四つに分けて分析し、タイプに応じた防止法、ミスが発生した時の対処法・対応策を考えることによって、業務改善及び業務効率化を図るノウハウを学びます。

＊＊

■組織で活かす公務員倫理実践研修

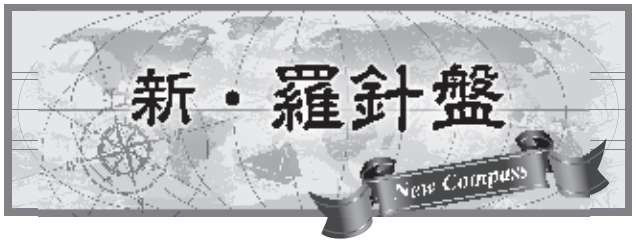
【実施日：平成30年8月7日（火）　締切日：平成30年6月28日（木）】

公務員倫理を実践するために必要な意識の醸成方法や知識を習得することで、組織のマネジメントも含め、公務員倫理を実践する手法を学びます。

＊＊

■システム研修の延期・変更について

平成30年度システム研修の全日程について、平成30年5月15日付財大振第98号でお知らせしたとおり、延期・変更することになりました。
大変ご迷惑をお掛けしますが、ご了承の程、宜しくお願いします。
なお、延期・変更後の日程等については決定次第ご案内いたします。



目まぐるしく変化する時代の中で、地方行政、自治体職員が目指すべき方向性について、学識者・行政経験者などの著名人に、政策提言を頂きます。

【第14回】
財務省
財務総合政策研究所研修部長
人事院公務員研修所教授
高嶋　直人 氏

効果の上がる不祥事防止対策（前編）

不祥事の根絶を目指し様々な取り組みが行われていますが、残念ながら不祥事は後を絶ちません。不祥事防止に決め手はありませんが、複雑な人の心理を理解しその上に立って対策を講じれば、比較的効果の上がる防止策を講じることは出来ます。最近人の非合理的な行動を前提とした行動経済学に注目が集まっています。人の思考と行動は決して合理的とは限らず、通常発想するロジックだけでは理解できません。効果的な対策を作るには、素人判断のロジックを組み立てるのではなく、心理学など専門的な知見の活用が必要です。

効果が上がる不祥事防止対策の内容を二回に渡り、紹介、提案してみたいと思います。

1．不祥事の真の原因

不祥事のほとんどは、「悪いということは分かっていたけどやってしまった。」というものです。（不祥事を犯した多くの人が言う「認識が不足していた」などの釈明を文字通り信じて対策を講じてもほとんど意味がありません。）人は多くの場合、自分の中で強い自分と弱い自分の間で葛藤があり、勝った方の自分に従い行動します。酒を飲むか勉強をするか、倹約をするか贅沢をするかなど日々葛藤の繰り返しと言っても過言ではありません。そして、例えばお金やお酒などが原因で起こした不祥事は、その誘惑に勝てず負けた結果と言えます。我々はよく「倫理観が高い、低い」という表現で不祥事について語ることがあります。しかし、実はその言葉で言いたい内容は、その人の倫理に関する考え方を云々するのではなく、その人が倫理的な行動がとれるか否かを指しています。

公務員倫理研修の目的を「高い倫理観の醸成」とすることがあります。しかし突き詰めると究極の目的は「不祥事を起こさないこと」や「倫理的に正しい行動がとれること」です。つまり、求められるのは倫理的な「意識」ではなく「行動」であり、「分かっていたけどついやってしまった」のでは何の意味もありません。

このように、不祥事の多くは、「悪いことをしてはならない」という自分が「悪いことをしても構わない」という自分に負け、行動に移してしまうことを意味します。つまり、不祥事を起こす人は、意志力（自分で自分を厳しく律する力、誘惑に負ける気持ちを制する力）が弱いのです。そこで、不祥事の防止には「意志力の強化」がカギとなります。

それでは、どうすれば意志力を強化できるか、意志力に大きく影響を与えると言われている要素毎に順次見ていきたいと思います。

2-1．将来の自分との連続性

人は「将来の自分は今の自分と違って、より正しい行動がとれる人間になっている。」という錯覚を持っていると言われています。錯覚というのは、根拠なくそう思うからです。例えば、「今だらしなくとも将来はしっかりする」と根拠なく思うというのです。皆さんも「今日だけ、今晩だけ」と思い、つい無駄に時間やお金を使ってしまうことはありませんか。この不思議な錯覚にも似た心理が常に今の意志力を弱くすると言われています。（歳を重ねた筆者は人生そのものについても心当たりがあります。特に若い時は、「年齢を重ねると成長する」という根拠なき自信を持って生きていた気がします。しかし今では、そんなことはないと断言出来ます。年を取ると体と心が離れていくだけです。）

このことは、「将来の自分と現在の自分に連続性があることを意識することが出来れば意志力は高まる」ことを意味します。将来の自分を具体的にイメージして、未来とは「今」の連続した先にあるもので、自分は自分が変わろうとしない限り変わらないと本気で思うことです。

筆者は公務員倫理研修で、参加者の皆さんに「5年後のなりたい自分、1年後のなりたい自分、そのために向こう1カ月にやるべきことは何か」を書き出してもらい、将来の自分と現在の自分の連続性を強く意識してもらっています。夢を目標に変

え、その達成のために今日やるべき行動を考えると、今の自分、今の時間を大事にする気持ちが湧き、目の前の誘惑に負けて夢を諦めざるを得ないような行動に走ってはならないという自制の気持ちになれるからです。

2-2. 意志力は感染する

「意志力は感染する」と言われています。「朱に交われば赤くなる」という諺がありますが、短期的にも意志力は感染することが様々な実験で検証されています。このことは、意志力の強い集団には不祥事が起きにくく、逆に意志力の弱い集団では不祥事が起きやすいと言えます。意志力のレベルが低く、小さな規定違反が日常的に行われているような職場では、各人の倫理観が低下します。それは、人は自分の意志力のレベルを他の人と比べて理解するため、倫理観が低い集団にいると知らず知らずのうちに自分の倫理観を下げてしまうからです。このことは、職場風土を改善し、軽い違反行為にも敏感な風土にしておくことが不祥事防止につながることを意味します。

「割れ窓理論」という言葉をご存知でしょうか。これは、軽微な犯罪も徹底的に取り締まることで凶悪犯罪を含めた犯罪を抑止できるとする環境犯罪学の用語です。この「割れ窓理論」により、地下鉄などニューヨークの街が整備されたことによって犯罪件数が劇的に減少したことは広く知られています。

また、民間企業では「5S」というスローガンを掲げて職場環境を改善しているところがあります。これは、「整理、整頓、清掃、清潔、躾」の言葉全てが「サ行」で始まることから5Sと呼ばれるのですが、このような日常的な行動は従業員のモラルの向上にもつながると言われています。以前、民間企業の方に公務職場を見てもらったことがあります。残念ながら多くの人が驚くのは、書類が机の上に山積みになっていて書類に囲まれて仕事をしていることです。それが当たり前の光景になると、皆そのような環境で仕事を始めます。まさに、意志力が感染する一例と言えます。

意志力が感染するということは、5S運動のように日々些細なことでも職場環境を改善することに全員で努力することが不祥事防止に有効であることを意味します。5Sのような取組みは、単なる精神論ではなく心理学的知見に裏付けられた不祥事防止のための効果的な対策なのです。

2-3. リバウンド効果

リバウンド効果とは、人は禁止されたことを禁止されたためによけいに欲するという心理のことを言います。例えば、ダイエット中に、特に食べてはいけないとされたものが逆に無性に食べたくなる。そして食べてしまった結果、リバウンドを起こしてしまうというのです。この逆説的な人の心理を示す例としては、「禁じられた恋は逆に燃え上がる」というロミオとジュリエットのような恋愛があります。またもっと単純な例として、人は「右に曲がってはいけない」と指示されると逆に右に曲がってしまう人が一定割合発生するのに対し、「左に曲がれ」と指示すると右に曲がる人はほとんど発生しないことも実証されています。つまり、人には他人から「考えるな」ということを逆に「考える」という心理法則が存在するのです。

このことから言えることは、不祥事の事例紹介や禁止規定の説明だけで構成された研修には一定の副作用があるということです。自分が似た環境下に置かれた時、「考えるな」、「してはならない」と教えられたことを逆に思い出し、中には誘惑に負けて同じような不祥事を犯してしまう人がいるのです。

過去の不祥事について、その内容を詳細に説明するだけでは、「やってはいけないと言われるから逆にやってみたくなる人」には逆効果になりかねません。研修で、過去の不祥事を振り返る際には、「どうすれば再発を防止できるか」など能動的な問いかけもセットで行う必要があります。そして、「～してはいけない」という言葉は出来るだけ「～しなければならない」という言葉に置き換えてインプット出来るように工夫することもポイントです。

筆者は、「新しい公務員倫理」というコンセプトで積極的な行動規範を考える公務員倫理研修を仲間とともにここ数年来研究開発して来ました。「悪いことをしない」ためにも「正しいことをする」という強い意志を育てることが重要だからです。研修では参加者に「より正しい判断は何か。」など自らの価値観に照らして組織全員が持つべき行動規範を考えて貰います。これは「高い志を持つ」などこれまで抽象的に語られてきたことに通じるものです。ただ研修で功なり名遂げた方を講師に招いて「高い志を持とう」とお話し頂いても残念ながらあまり効果はありません。高い志を行動に落とし込み、腹落ちさせるためには自らの頭で考えることが必要です。（後編に続く。）

◇ **執筆者Profile** ◇

人事院研修指導課長、総務課長、立命館大学大学院教授などを経て現職。自治大学校、市町村アカデミー、JIAM、マッセOSAKA、東北自治研修所、岐阜県、佐賀県、京都市、大阪市等において「マネジメント」、「働き方改革」、「公務員倫理」などの研修講師を務める。著書に、「読めば差がつく！若手公務員の作法」（ぎょうせい）。月刊ガバナンス（ぎょうせい）に「人財マネジメント講座」連載中。

帰任職員・異動職員紹介

平成29年度末をもって派遣期間を終え、派遣元へ帰任した職員を紹介します。

山口（やまぐち） 将司（まさし）（羽曳野市へ帰任）

平成28年度から2年間、お世話になりました。このネットわーくの記事ではふざけっぱなしでしたが、根は真面目だと辞任、いえっ自任しています。マッセに赴任し、あっという間の2年間でした。とても充実した2年間を過ごすことができました。この場をお借りしまして、マッセOSAKAの皆さま、講師の皆さま、出張先で出会った研修仲間たち、本当にありがとうございました。色んな人に支えられ、マッセ生活をゴールできました。

この2年間では、これからの時代の「人材育成とは何か」、「政策形成とは何か」ということを重点的に学ぶ機会に恵まれました。特に、2年間マッセの特別研修「政策形成実践研修」を担当させてもらい、そこで得た知識と経験を基に「自治体学会山梨甲府大会」に研修仲間たちと一緒に登壇するという、一生に一度の体験と思い出ができました。

帰任後は、教育委員会生涯学習室スポーツ振興課に配属されました。スポーツイベントの企画と運営をしたり、スポーツ公園の樹を切ったりしています。スーツと作業着を交互に着る毎日を過ごしていますが、マッセ生活で得た財産を大切に、羽曳野市の看板、マッセの看板を背負い、引き続き元気に疾走していきたいと思いますので、またよろしくお願いいたします。

最後に、同期の青柳くん、後輩の中堂くん、山崎くん、仲良くしてくれてありがとう。楽しかったで。バイバイキーン。

岡元（おかもと） まゆり

4月の人事異動で総務企画部財務グループに配属になりました岡元です。研修研究部での2年間、多くの先生方や受講生の方々とお話しする機会にも恵まれ、新たな気づきから充実した学びの日々を送ることができました。本当にありがとうございました。

財務グループでは2年ぶりに資金貸付事業や交付金事業などを担当いたします。市町村の皆さまのお役に立てるよう業務に励んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

樋渡（ひわたし） 太一（たいち）　　山崎（やまさき） 治喜（はるき）

9月からマッセOSAKAを兼務しておりました樋渡です。半年という短い期間ではありましたが、講師の先生方や市町村職員の方には大変お世話になりました。ありがとうございました！

4月からは自治振興部に戻りました。市長会や町村長会の会議でお会いする機会がありましたらよろしくお願いいたします。

昨年度の9月からマッセOSAKAの業務を兼務しておりました山崎です。大変お世話になりありがとうございました。

短い期間でしたが、研修・研究事業等を通じて自治体職員の方々と接することができ、自身にとっても良い刺激となり大変勉強になりました。マッセで培ったことを今後の業務に生かしていきたいと思います。またいつでもお気軽に事務所までお越しください。お待ちしておりマッセOSAKA！

新派遣職員紹介

平成30年４月からマッセOSAKAの新戦力となった職員を紹介します。

立田（たつた）　雄（ゆう）（箕面市から派遣）

この度、箕面市から派遣で参りました、立田と申します。

マッセOSAKAの業務はこれまで経験してきた業務とは異なり、研修・研究という私自身にとって新たな分野となります。

マッセOSAKAの目的である、研修・研究での以下の目的を達成するため、精一杯頑張りますので、ご指導の・ご助言の程、よろしくお願いいたします。

《マッセOSAKAの目的》

- 【研修】大阪府内市町村職員の資質の向上及び勤務能率の増進をはかり、行政の民主的かつ能率的な運営に寄与するため、実施する。
- 【研究】市町村独自の政策形成の推進を目指すため、広域的あるいは将来的な課題についての調査・研究を進め、新たな行政課題や政策についての提言、情報の累積・受発信を行うため、実施する。

村上（むらかみ）　絵里子（えりこ）（富田林市から派遣）

この度、富田林市から派遣で参りました村上と申します。

平成22年度に入庁し、マッセOSAKAへの派遣前は６年半、市民税の担当をしていました。

人事課から派遣のお話をいただいた時、新たな環境で全く異なる業務をするということに不安を感じ、もがき苦しんでいる自分の姿が想像できましたが、今より成長したいと思い、マッセOSAKAへやって来ました。失敗したり恥をかいたりすることを恐れずに、苦手なこと、できないことにも積極的に取り組みたいと思います。派遣の２年間、今の気持ちを忘れずに頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

よもやまばなし

A「てぇへんだ！てぇへんだ！マッセに新しい仲間が増えたんでぃ！」

B「うわっAさん、〝SOGANE～〟（前号「スタッフのつぶやき」参照）が浸透してないからって、今度は江戸っ子ノリを流行らせようとしていらっしゃる…）」

A「おい、Bさん聞こえてるよ！確かにSOGANE～全く浸透してないけど…」

B「そうですね」

A「だから、そこはSOGANE～だって！って、そんなことより、Bさん、新しくマッセに来てくれた仲間を紹介して！」

B「承知しました。ふわりと優しい女性と、シルエットがCさんそっくりな男性がいらっしゃいました」

A「Bさん説明が雑いよ！」

B「だって、ちゃんとした説明が新任職員紹介にあるじゃないですか。しかもこのコーナーの真上に」

A「いやいや、だけどさ、もっと何かあるでしょうよ。マッセの先輩として言うこととかさ。Bさん、そんなんじゃ新しい2人と仲良くなれないよ？」

B「お二人と一緒にお昼ご飯は行きましたが」

A「えっ⁉Bさんもう一緒に行ったの⁉俺まだ行ってないよ⁉」

B「あ、Aさん、まだなんですか。私は何度かご一緒させてもらってます」

A「…もしかして、俺、嫌われてる⁉」

B「……。」

A「ちょっと！Bさん何か言ってよ！」

B「冗談ですって。Aさんには、これからもマッセを引っ張って行ってもらわなければいけないんですから」

A「そうだよな！」

B「そこは、SOGANE～なんじゃ？」

A「あああ～～～！！！」

B「それでは、今年度もマッセをよろしくお願いしマッセOSAKA！」

研修研究部（マッセ OSAKA）のご紹介

曽我　青柳　中堂　咲野　加藤　生田

乾　立田　齊藤　村上　武津

所長の**齊藤慎**です。マッセOSAKAは研修・研究や自主的活動の支援などにより、情報や知識だけではなく、市町村職員に必要な知恵と人的ネットワークを提供できる組織を目差して活動してきました。マッセは今年開設23年目に入り、人の人生に例えると、「青春」から「赤夏」というもっとも活動的な時期を迎えようとしています。これまで蓄積したノウハウを活かしながら、マッセは時代に適合した新たな研修・研究を行って参ります。

研修研究部長の**生田**です。本年度は、当部内にプロジェクトチームをつくり、マッセOSAKAのビジョンを検討いたします。このビジョンは、マッセの将来あるべきすがたについての基本目標を策定しようとするものです。「マッセビジョン」の策定にあたっては市町村の研修関係者などの意見も必要となります。ご協力をよろしくお願いします。

吹田市から派遣の**青柳**です。マッセでは３年目を迎えることになりました!!新年度でマッセスタッフも入れ替わりフレッシュ感満載です。私もフレッシュ感を出して今年も楽しみたいと思います！皆さま引き続きよろしくお願いいたします！

「昨日よりも明日を楽しく」をモットーに常にチャレンジ精神を持って仕事をしている**曽我**です。そのためには、スタッフの協力が必要です。今年度もマッセのスタッフが感性を磨いて楽しいイベントを提案してくれることでしょう！この号が出るころにはどんな企画が出ているか、とっても楽しみです。そんな私をさらに楽しくなれる**癒し**のお茶会にお誘いください。お待ちしてます。

乾です。異動前は振興協会の理事会等の企画運営や、人事全般を担当していました。入職以来初めてのマッセでの勤務、初心を思い出し、市町村の皆様のお役に立てるよう頑張ります！

＊＊＊マッセ臨時職員＊＊＊

咲野　マッセで２回目の春を迎えました。培ったキャリアで、皆様のお役に立てるように頑張ります！

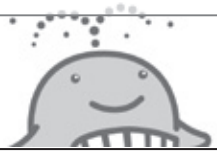
加藤　まだまだ至らない所だらけですが、おばちゃんパワーで頑張りますのでよろしくお願いします。

武津　有意義な研修・研究となるようサポートしたいと思います。宜しくお願い致します。

泉南市から派遣（２年目）の**中堂**です。昨年度、全国の皆さんと交流し、マッセの知名度の高さに驚きました。今年もどんどん成果を出していけるように、新メンバーとともに頑張ります！引き続き、研修やセミナーへの参加もよろしくお願いします。

「いつも幸せに」をモットーに生きている**立田**です。そのためには、組織マネジメント、労務管理、飲み会が重要です。お酒は２杯がリミットですが、飲み会に参加させていただきますので、よろしくお願いします。（リミットを超えても表に出ませんが、取り返しのつかない事態になります。）

富田林市より派遣の**村上**です。これまでは担当業務にばかり目がいきがちでしたが、マッセでは幅広い分野に触れ、広い視野を持ちたいと思っています。マッセの研修等は魅力的なものがたくさんです！皆さんにもぜひ参加していただけたらと思います！



今号は
乾＆青柳でーす！

★★★
スタッフの
つぶやき
Vol.15

（乾）初見参の乾です。NHK大河「西郷どん」のラスト、俳優・西田敏行さんが「こよいはここらでよかろうかい。西郷どんチェスト！きばれ！」という味のあるナレーション。その「こよいは～」というセリフは西郷隆盛が西南戦争で最期を迎える時の言葉だと、地元の観光案内の方がお話していたそうです。2020年の大河の主役は「明智光秀」、その次は、我が大阪にゆかりの深い「楠公さん」に決まってほしいなぁと思う今日この頃。合掌。

（青柳）6月にサッカーW杯が開幕しますね！日本代表は監督交代で揺れており、世間の関心度もイマイチ？のようですね。確かにスタッフ内でも話題にあがりません。（泣）　しかし、生粋のサッカー好きと辞任、いえ、自認にしている私は待ち遠しくて堪りません！開催国がロシアのため、日本での試合放送は深夜帯です。一方、マッセ研修も6月に本格的に開幕!?します！寝不足覚悟！居眠りをしていたら起こしてください。（笑）

「文化・芸術を活かしたまちづくり研究会」研究成果報告会を開催しました

平成30年3月5日（月）に、文化・芸術を活かしたまちづくり研究会研究成果報告会「公開シンポジウム～Culture & Art × Osakaの持つ可能性～」を開催しました。

本研究会は、指導助言者に神戸大学大学院国際文化学研究科教授の藤野一夫氏を迎え、「文化やアートが持つ力を、まちづくりや地域活性化に繋げよう」をテーマに、平成28年5月より調査・研究を進めてきました。

基調講演では、劇作家・演出家の平田オリザ氏から、「文化によるまちづくりの可能性－大阪の文化政策への疑問－」というテーマで、ご講演いただきました。講演では、子どもたちに早い時期から一流の教育的文化資本に触れさせることの重要性についてや、大阪の数多くある文化資産や歴史資産をもっと活用するべきであると、鋭い切り口からの提案がなされ、来場者にはたいへん好評でした。

基調講演の様子

第２部の研究成果発表では、「文化政策班」、「公共文化施設班」、「コミュニティ創生班」、「文化創造・発信班」の各グループから、２年間の研究で得た成果報告と、行政に向けた提言を行いました。

第３部のパネルディスカッションでは、コーディネーターに藤野一夫先生、パネリストとして平田オリザ氏、株式会社KAJIMOTOのオーレリー・アブデルジェバル氏、神戸大学所属の林知佳氏、本研究会研究員に登壇いただきました。平田氏からは文化やアートの持つ力について、オーレリー氏からはフランスと日本の文化行政の比較について、林氏からは学生目線で見た関西の文化芸術について、様々な議論が交わされました。また、適宜会場からも質疑を受けながら、幅広い観点で来場者との情報共有もされていました。

終了後、「素晴らしいシンポジウムだった」や、「今日の刺激を受け、もっと大阪から全国へ文化芸術施策の熱意を発信していかなければと思う」などの感想をいただきました。

単なる娯楽だけではない、「文化・芸術」が持つ魅力と可能性、そして、地域活性化を生み出す大きな力を存分に感じることができた時間となりました。

○本研究会の研究成果をまとめた報告書をマッセOSAKAにて発行しました。是非ご覧ください。

復活連載コーナー　約20年の時空（とき）を超え、修業僧リボーン！

私たち陽気な修業僧

研修研究部　主事　　青柳　成和

平成30年3月17日・18日、春の陽気に誘われた私は、例年より開花が早い桜を見に東京へ・・・。というのは冗談で、「FRJ（ファンドレイジング・日本）2018」に参加するため東京へ行ってきました。

皆さん、「ファンドレイジング」ってご存じでしょうか？主にNPO団体が活動資金を寄附金で調達する際に使われる行為の総称で、「ふるさと納税」や「クラウドファンディング」もその一つです。近年、子育て支援や難病支援などといった社会的課題の解決に向け、ファンドレイジングが全国で活発化しています。

「FRJ2018」では、ファンドレイザーと呼ばれる寄附金集めの専門資格を持った国内外の先駆者120人が講師として登壇し、ファンドレイジングの成功事例が共有されました。参加者はNPOや企業、自治体、金融機関、大学、そして高校生まで！総勢1,500人が集い、あらゆる分野において関心が非常に高いことが伺えました。

セッション風景

参加して学んだ寄附を募る際のポイントは主に２点。一つ目は、「自分事」として捉えてもらうこと。二つ目は課題解決策の軸がしっかりしていることです。これらを課題解決に貢献したいと思う人に熱意をもって伝えることで、共感を呼び、その共感は連鎖すると感じました。

日本の個人による寄附額は米国の3%程度、年間約7,700億円だそうです。欧米に比べるとこれからかなり伸びしろがあるといえます。さらに、震災以降“社会の役に立ちたい”と思う人の割合が高いという国の調査結果もあり、今後、寄附文化がますます広がる環境にあるのではないでしょうか。

行政主体ではなく民主体の新しい課題解決のあり方と、暖かい資金の流れが日本中で起きていることを肌で感じました。そして同時に、行政としての関わり方についても考えさせられました。

“共感を呼べる職員”。多様な人たちとの協働が欠かせない行政運営において、一つのキーワードになるのではないかと思います。答えを見つけるため、まだまだマッセでの修行は続く～。

ココだけの… こぼれ話

本コーナーは、日常生活をイキイキと活動している現職の行政関係者を取り上げ、どのように仕事に活かしているかをお披露目していただくコーナーです。執筆者は、マッセOSAKAの職員が研修や交流会などで出会った方や、マッセOSAKAに派遣されていた先輩方にお願いしております。

第８回は、寝屋川市 経営企画部 都市プロモーション課　岡元 譲史 さんのこぼれ話です！

人、モノ、起きる出来事に価値を見出す「ほめ達！公務員」の巻

寝屋川市　経営企画部　都市プロモーション課　岡元 譲史 さん

皆さんは、「ほめ達！（＝ほめる達人）」というフレーズを聞いたことはあるでしょうか。

大阪に『一般社団法人 日本ほめる達人協会』という団体があり、「ほめる」ということを、「人、モノ、起きる出来事に価値を発見して、伝える」と新定義し直した上で、「ほめる」ことの素晴らしさを広めるために「ほめ達！検定」なるものを全国で開催しています。

「ほめ達！検定」は３級、２級、１級とあり、３級の受講者は38,918人（平成30年４月21日現在）に上るほか、最近では、「ほめちぎる自動車教習所」など、ほめ達！の考えを取り入れた企業が業績を伸ばしている事例も多数あります。

認定講師合格記念にほめ達！西村理事長と

私自身は、平成25年２月にほめ達！検定３級を受講して、この新定義の「ほめる」に深く共鳴し、２級、１級と続けて受験。平成28年７月には、半年間の講座受講を経て認定講師になりました。

ほめ達！認定講師として全国で研修

また、長年携わってきた税金等の滞納整理という仕事に絡めて、「滞納整理という、一般的には忌避される仕事であったとしても価値を見出すことができる」ということをテーマに、庁内だけでなく、北は北海道から南は沖縄まで、全国の自治体で研修講師を務めさせて頂きました。

この春からは、新設された「経営企画部都市プロモーション課」に異動。まちの魅力創造やシティプロモーションに関わることとなり、まさに「ほめ達！」の真価が問われる職場であると、気合に満ち溢れております！

都市プロモーション課のメンバー

ほめ達！は、「人、モノ、起きる出来事に価値を発見する」言うなれば「価値発見の達人」です。

私は、全国に「ほめ達！公務員」が増え、たくさんの価値が発見されることで、まちが、日本が、もっともっと素敵な場所になると考えています。

まずは、地元の大阪でほめ達！の仲間を増やしたいと思っていますので、興味を持たれた方、ぜひお声かけください！

研修 日本縦断！

全国の特色ある職員研修を随時紹介します。

第11回
こうち人づくり
広域連合

こうち人づくり広域連合って？

こうち人づくり広域連合は、高知県内全市町村職員の人材育成を行う専門機関として平成14年12月に設立されました。特別地方公共団体として、地方自治法の規定に基づき策定した広域計画を踏まえて、県内市町村職員等を対象とした研修の実施の他、研修支援、人材交流及び政策研究に関する業務を行っており、事務局は高知県及び市町村からの派遣職員によって構成されています。

平成28年10月には、新築の高知県自治会館（高知の木材を活かしたCLT工法による素敵な建物です）に事務所を移し、木の香り漂う会場で研修を行っています！

第４次広域計画が平成30年度にスタート

平成30年度からの５か年を計画期間とする第４次広域計画では、「次世代につなげる豊かな地域づくりは人づくりから」をミッションに掲げ、市町村職員の意識の変革と人材の育成に取り組んでいきます！

災害時の対応力を高めるために！

第４次広域計画では、南海トラフ地震をはじめとする大規模災害に備えるために、市町村職員に求められる災害時の対応力を高める知識や能力の向上を図る「防災・減災力向上セミナー」を新設しました。平成30年度は、災害時に重要業務を中断せず、災害対応を適切に行うため、確実に機能するBCP（事業継続計画）とするために必要な知識を学ぶ研修を開催する予定です。

また、平成28年度から新規採用職員研修でHUG（避難所運営ゲーム）研修を実施しています。HUG研修を通して、要援護者への配慮、仮設トイレの配置場所等生活空間の確保、被災者の要望やボランティアへの対応といった事に対して、意見を出し合ったり、話し合ったりしながら避難所運営を学んでいます。受講生からは「予想外のことが多く起こり、対処が遅れたり、後悔することがあった」、「この経験を災害時に活かしたい」、「職員として住民の方々をしっかりと誘導できるようになりたい」、「情報処理、臨機応変な対応ができるように知識をつけたい」等の頼もしい声をいただきました。

今後も、市町村職員に求められる災害時の対応力を高める知識や能力の向上を図る研修を実施したいと考えています。

さいごに

「ネットわーク Vol.174」をご覧の皆さま、高知に来られたことはありますか？

四万十市西土佐で平成25年８月、日本国内における観測史上最高気温となる41.0℃を記録しました。「南国土佐」、ペギー葉山さんの曲で有名になった言葉ですが、真っ青な空と澄み切った川、白い砂浜、強い日差しはまさに南国。５月は鰹、きびなご、フルーツトマト、小夏、びわが特に美味しい季節です。ぜひお越しください！

足摺岬

四万十川

暑さ日本一!!

メジカ

シリーズ バトンタッチ 第172回

研修担当課の皆さんが、次々に仲間を紹介し、ネットワークを広げます。今回は、**岸和田市の森川**さんからのご紹介で・・・

阪南市市長公室人事課
芝野　秀樹 さん
◆阪南市イメージキャラクター「はなてぃ」と一緒に

岸和田市の森川様よりバトンをいただきました、阪南市市長公室人事課の芝野と申します。人事課に配属されて現在７年目となりますが、研修業務は平成27年10月から担当していました。受講者から企画する側に立場が変わったことで、悩むことや戸惑うこともありましたが、マッセOSAKAのみなさんや他団体の研修担当職員の方々に支えられ、２年半を乗り切ってまいりました。

阪南市では、職員がめざすべき職員像である「行政のプロフェッショナルとしての使命と責任を果たすため、果敢に挑戦する職員」となるために必要な能力を身につけるため、職員研修計画を毎年度見直ししています。

平成29年度からは、自己啓発の推進と組織力を図るための手法として「研修ポイント」制度を導入しています。本制度は「自己学習が人材育成の基本」という考え方の基、職員が自ら気づき、学習するにあたっての具体的な目標となることを期待しているもので、獲得したポイントは受講した研修名とともに人事評価制度の自己申告として報告することが可能となっています。現在は、職員の能力向上に対する意識の自己PRという位置づけですが、将来的には職員の能力向上の目に見える成果として、評価とリンクする制度構築を進めていこうと考えております。

最後になりましたが、マッセOSAKAのご担当者様をはじめ、大阪府内の各市町村研修担当者様にはいつもお世話になり、ありがとうございます。この場をお借りしまして、厚くお礼申し上げます。

次回は、
【富田林市の坂口さん】
にバトンタッチ！

お知らせしマッセ

◆クールビズ期間に入りました

マッセOSAKAでは5月1日から10月31日までクールビズ期間となります。ご理解とご協力をお願いいたします。もちろん、研修参加者の方々もクールビズでお越しください！

◆食べマッセMAPを更新しました

マッセOSAKAでは、研修参加者の方々に有意義に休憩時間を過ごしていただけるよう、ランチマップをご用意しております。

この度、大幅に見やすくしましたので、奮って研修にご参加ください!!

◆「第104回マッセ・セミナー」

「“関係人口”って何？
～しまコトアカデミーの事例から学ぶ～」
日時：平成30年7月20日（金）
会場：マッセOSAKA　5階大ホール
講師：ローカルジャーナリスト　田中 輝美氏

◆研究会報告書ができました

「文化・芸術を活かしたまちづくり研究会」「クラウドファンディングによる地域活性化研究会」「自治体職員の働き方改革研究会」の報告書ができました。5階休憩スペースにて配布しております。

もうすぐ
サマージャンボ宝くじの季節です！

サマージャンボ宝くじの収益金は、公共事業をはじめ、少子・高齢化対策、地域情報化対策などの事業に活用されており、市町村の明るく住み良いまちづくりに使われています。ぜひ大阪府内の宝くじ売り場でお買い求めください。

「宝くじ★買うんやったら☆大阪で！」